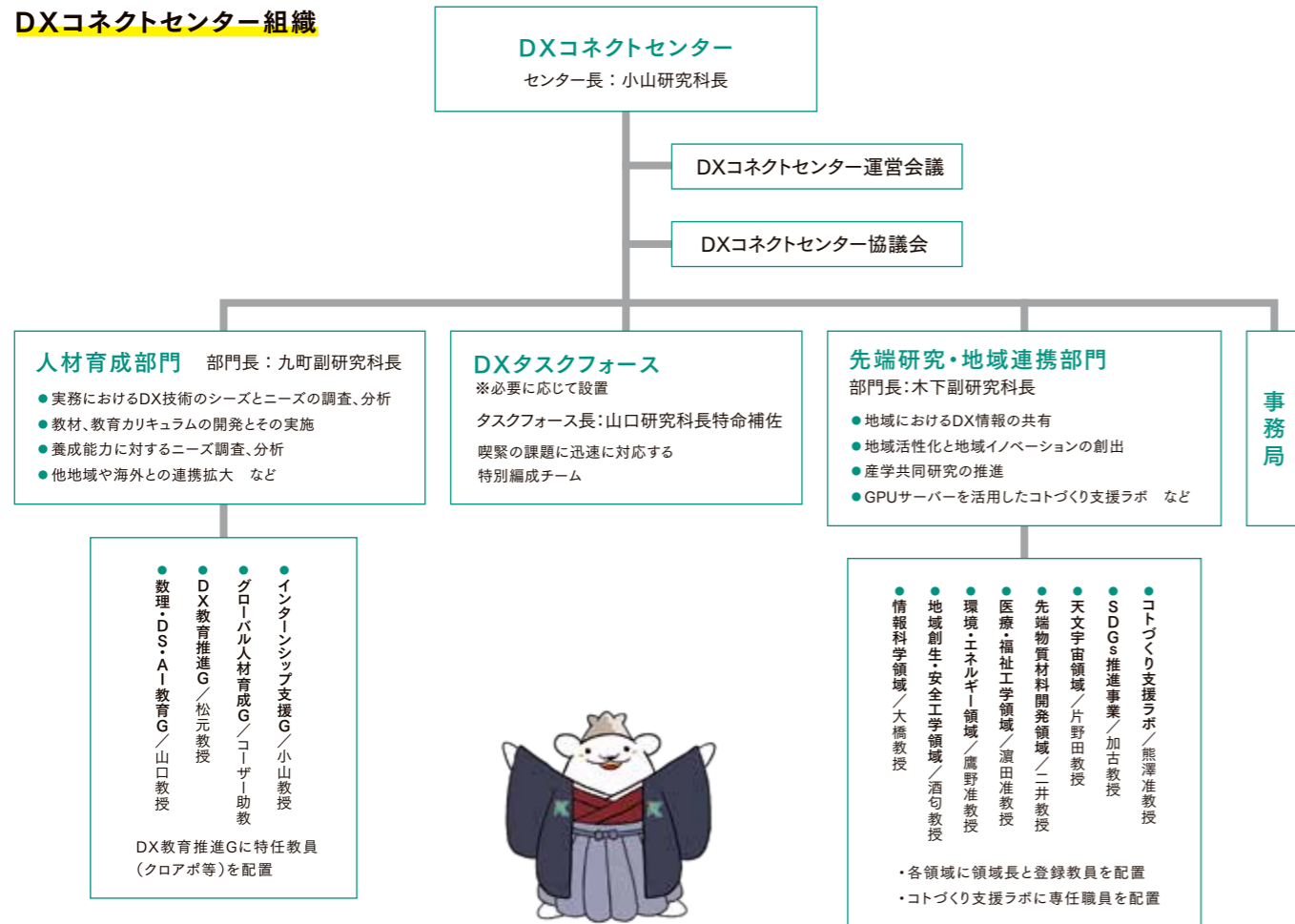


DXコネクトセンター組織



ACCESS

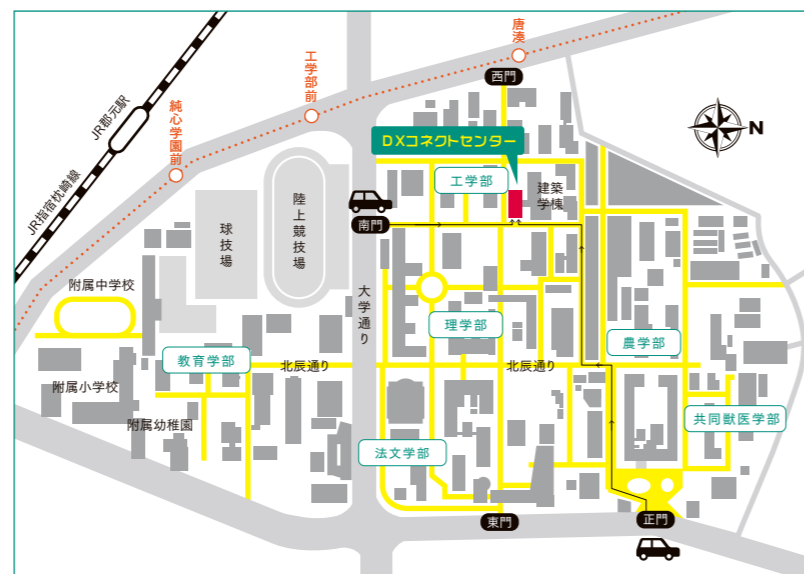
「鹿児島中央駅」 経路の主な路線

- 徒歩 / 鹿児島中央駅から約25分
- 市電 / 2系統 郡元方面唐湊電停前下車約1分
- 自動車 / 鹿児島中央駅から約8分



鹿児島空港⇄鹿児島中央駅
鹿児島空港リムジンバス約40分

- 市電 「唐湊(小牧建設前)」または「工学部前」
- 鹿児島交通バス 18番 大学病院線「鹿大正門前」または「法学部前」
- 市営バス 11番 鴨池・冷水線「鹿大正門前」または「法学部前」
- 南国交通バス N30 県庁西・鴨池新町方面「鹿大教育学部前」または「附属小前」



国立大学法人鹿児島大学 大学院理工学研究科
DXコネクトセンター
〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21番40号
Tel: 099-285-7689(代表)
Mail: dxcc_admin@eng.kagoshima-u.ac.jp



産官学でつなぐ
地域情報教育
人材強化の
新拠点

国立大学法人鹿児島大学 大学院理工学研究科

DXコネクトセンター





センター長挨拶

DXコネクセンター長
大学院理工学研究科理学専攻
物理・宇宙プログラム
教授 小山 佳一

高度情報専門人材育成強化と 地域貢献に関わる研究推進、 地域頭脳循環の拠点として 鹿児島大学DXコネクセンター始動

2024年11月、鹿児島大学大学院理工学研究科附属DXコネクセンター(以下、本センター)が設置されました。本センターは、理学専攻・工学専攻からなる理工学研究科を、理学・工学・情報科学の三専攻から構成される新理工学研究科へ改組するにあたり、新たなミッションのもと活動を開始しました。その主な目的は、高度情報専門人材の育成強化と地域貢献に関わる研究推進です。地域情報教育・人材育成の強化、地域ニーズを踏まえた教材・科目の開発、学内外組織や地域企業との連携、情報人材輩出のための人材教育の地域循環拠点形成などを進めていきます。

これまで理工学研究科には、2014年に設置された地域コトづくりセンターとグローバル人材育成支援室があり、約10年間にわたり多くの実績を残してきました。両組織は本センター設置に伴い廃止されましたが、人材や培ったノウハウなどの資産は本センターに継承され、今後の推進力となっています。旧地域コトづくりセンターは「先端研究・地域連携部門」として再編され、地域におけるD

X情報の共有や産学共同研究の推進などを行います。旧グローバル人材育成支援室は「人材育成部門」となり、DX技術に関する分析や教材・教育カリキュラムの開発、国内外研究インターンシップの実施を担います。また、喫緊の課題に迅速に対応する特別編成チームとして「DXタスクフォース」も必要に応じて設置し、本センター設立当初より活動していた「半導体タスクフォース」は、2025年7月1日より「半導体人材育成理工学センター」へと発展し、現在も幅広い活動を展開しています。

さらに、本センター内には「DXコネクセンター協議会」を設け、鹿児島に関係する企業9社、鹿児島県・鹿児島市、地元高等教育機関3機関、学内関連2組織が参画しています。加えて、クロスアポイントメント協定機関(1大学・3企業)と連携し、実践的なDX教育を展開しています。

本センターは今後も、高度情報専門人材育成と地域連携の拠点として、地域社会の発展と持続的成長に貢献してまいります。皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

メンバー紹介

本センターは、デジタルトランスフォーメーションの研究と実践を通じ、学術的知見の社会実装および地域連携を推進しております。本センターに所属する教員各部門の取り組み内容を以下に紹介いたします。



人材育成部門
部門長
大学院理工学研究科
理学専攻
生物学プログラム
教授 九町 健一

本部門は、DX技術に関する実務的なシーズとニーズを調査し、それに見合った教材や教育カリキュラムの開発・実施を担います。C-ENGINEを通じた研究インターンシップや海外留学支援によるグローバル人材の育成、DX・数理・データサイエンス・AI分野に関わる専門的な教育を推進し、デジタル変革を担う人材基盤の形成に貢献していきます。



DXタスクフォース
タスクフォース長
大学院理工学研究科
工学専攻
海洋土木工学プログラム
教授 山口 明伸

GX・DXの進展に伴う世界的な半導体需要の拡大と、経済安全保障上の重要性の高まりを受け、わが国では半導体関連人材の育成が喫緊の課題となっています。特に九州では「シリコンアイランド復活」に向けた産学官の取り組みが活発化しています。タスクフォースは、その一翼として、鹿児島における教育研究拠点の形成を支援し、九州の産業界・教育機関・行政と連携した人材育成を推進してまいります。



先端研究・地域連携部門
部門長
大学院理工学研究科
工学専攻
機械工学プログラム
教授 木下 英二

本部門は、本学理工学研究科の強みである6つの研究領域と、「SDGs推進事業」「コトづくり支援ラボ」で構成されています。先端研究や革新的技術開発につながる新しいシーズの創出、地域ニーズに応じた産学共同研究や地域イノベーション創出を推進・支援し、地域社会の安全・安心な暮らしと産業発展への貢献を目指しています。現在、8つの研究会が設置され、教員と地域企業・支援者が協働して地域課題の解決に取り組んでいます。

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

産学官で協働し、地域が求める人材の育成と魅力ある雇用の創出を推進します。博士課程に情報科学専攻・コースを設置し、DXコネクセンターを拠点に、教育コンテンツの開発や地元企業との共同カリキュラムづくり、産学共同研究などを展開。地域における情報教育と人材育成の中核拠点として、デジタル情報分野をリードする人材を育てます。



DXCC事業関連構想

DXCC事業は、デジタル技術を活用して業務プロセスの革新を推進し、企業の競争力強化を支援します。業界の枠を超えた連携と高度なデータ活用により、未来志向のサービス展開を目指します。

DXCC事業三本柱

- 人材育成
- 共同研究
- 企業活性化

